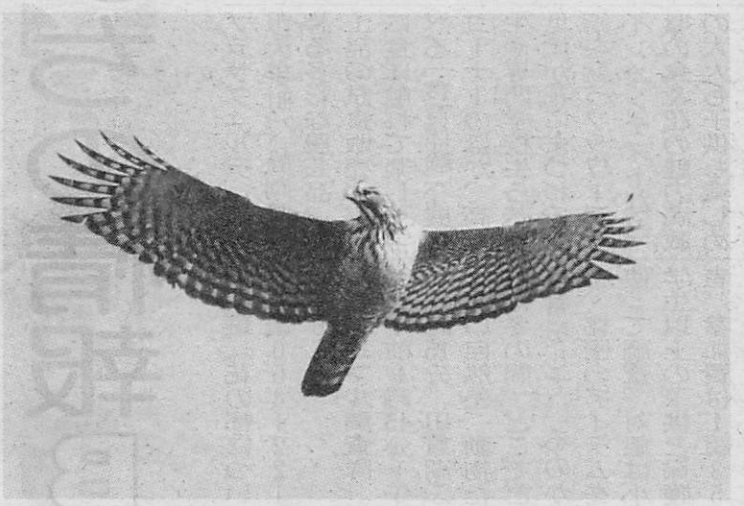
「やっと出会えたクマタカ」

林　孝行
（富士宮市大岩）

国内にすむ大型猛禽（きん）類の代表と言われ、絶滅危惧種（IB類）に指定されているクマタカ（英名…Mountain Hawk eagle）を富士宮で探し求めていたが、今回やっと念願かなって撮影できたのである。

ことの発端は、野鳥写真家の若尾親さんが南アルプスの山奥で12年の歳月をかけて撮影した写真集「クマタカ」を見た瞬間である。クマタカの鋭い視線に戦慄（りつ）を感じ、思わず息が止まるような迫力。野性にだけ許される〝凛とした美しさ〟がそこにあった。



クマタカの魅力にひかれ、何度も早川町の南アルプス邑野鳥公園に撮影に出かけているが、はるか上空を飛翔するケースが多く、なかなか思うような写真が撮れない。そこで2年程前から、自然が多く残っている毛無山系に、もしクマタカがいれば近くで撮影ができるのではと考え、時間があるたびに双眼鏡を持って朝霧高原を探索した。

そんなある日のこと。双眼鏡に一瞬ではあるが、稜線に消えていったクマタカらしき鳥が目に入った。も、もしかしたら…。緊張で鳥肌がたつ思いであった。

それからである。何度も通った。やはり彼女（or彼）は、この山系にいた。10回に1回くらいの頻度で遠くに姿を見せてくれるのであったが、何とその日に限って決定的瞬間がきた。私の方にまっすぐ向かって来る鳥がいた。

最初、トビかな？と思ったが、近づくにつれて、「ワァー、クマタカだ！」。とっさに望遠レンズに飛び付き、ただただ、シャッターを押し続けていた。その時の写真がこれである。

冠羽をたて、橙色の眼をして、尾羽根にある帯状の鷹斑（たかふ）は3～4本なのでりっぱな成鳥である。何かポーズをとっているようで、こんな近くで撮影できるなんて夢みたい。

あのクマタカがこの山系に生息しているということは、背後に豊かな自然が残されているということである。これからも、大切に見守って観察していきたい。

フォトギャラリー